

## 1 将来像実現に向けた取組状況

- 令和4年(2022年)11月に、市民意見や市議会での議論等も踏まえ、札幌市の活力向上と北海道全体の発展のために丘珠空港が進むべき方向性として、「丘珠空港の将来像」を策定。
- この実現に向けて、北海道や経済団体、空港ビル、北海道エアポート(株)で構成する「札幌丘珠空港機能強化推進協議会」を設立し、令和4年(2022年)12月及び令和5年(2023年)2月に国土交通省及び防衛省への要望を実施。  
**【国土交通省への要望】**・滑走路長を1,800m程度とするための300m程度の滑走路延伸  
 ・空港運用時間の拡大(現状7:30~20:30 ⇒ 7:00~21:00)  
**【防衛省への要望】**・除雪業務及び管制業務に係る体制強化  
 ・運航便数の増加に係る自衛隊の運用との調整
- その後、将来像に示す機能強化策の実現に向けて、共用空港である丘珠空港の関係行政機関及び地元関係団体で、滑走路延伸を含む各種機能の強化に必要な議論を行い、相互に課題の洗い出しや情報の共有を図っていくため、令和5年(2023年)3月に「丘珠空港機能強化検討会」を設立。
- これまで、第1~5回の検討会を開催し、空港の機能強化に向けた課題や情報を整理。
- また、丘珠空港の機能強化や空港周辺の賑わい創出等に向け、丘珠空港周辺地域の11連合町内会の代表者と札幌市が一堂に会し、空港と周辺地域との調和と共生に向けた情報共有及び意見交換を行うため、令和5年(2023年)6月に「丘珠空港周辺地域連絡協議会」を設立。
- 第1回地域連絡協議会では、札幌市から取組(案)の説明や情報提供を行い、意見交換を実施。

## 2 丘珠空港機能強化検討会(第1~5回)

- 第1~5回の検討会において、主に6つの検討項目について、将来像における取組や今後の想定を踏まえた課題の洗い出しを行い、想定される課題や対応、対応の方向性を整理した。
- 主な課題・情報の整理の概要は以下のとおり。

検討項目	想定される課題や対応	対応の方向性
今後の増便への対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>・陸上自衛隊における低空域での訓練への影響、訓練時間の確保や管制・除雪業務の負担増加。</li> <li>・便数が増加した際の訓練の確保について、代替地の検討も必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイヤの調整による訓練時間との住み分けや訓練場所の確保、管制・除雪の体制強化など様々な方策を早期に整理。</li> </ul>
空港運用時間拡大による効果及び課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運用時間拡大に伴う人員や機材、経費などの増加を踏まえて検討が必要。</li> <li>・運用時間拡大により、運航が朝早く・夜遅くとなった場合の地域住民に対する騒音の問題。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・増便の見込みや管制・除雪の体制強化の状況も踏まえながら早めに検討。</li> <li>・増便や運用時間拡大に係る騒音の状況等について、騒音調査の回数や期間を増やすことも検討し、地域住民への情報提供を実施。</li> </ul>
滑走路延伸前・延伸後における除雪体制の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・除雪機材の老朽化が進んでいる。</li> <li>・滑走路延伸により、滑走路の除雪面積が約1.2倍に増えるため、除雪体制への影響が懸念される。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画的な除雪機材の更新や最新機材の導入などについて、連携して議論を進め、可能な限り対応。</li> <li>・体制強化や除雪時間の短縮化等を検討。</li> </ul>
空港ターミナルビル機能強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国土交通省所管区域内でターミナルビルや駐機場等をどのように拡張していくか、必要規模を踏まえて再配置の検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要規模や配置、施設計画などの検討については、ターミナルビルや駐機場等について、周辺緑地の活用の可能性も含めて検討。</li> </ul>

検討項目	想定される課題や対応	対応の方向性
2次交通に対する検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自家用車に対応した駐車場運用のあり方やバスアクセスの充実について検討が必要。</li> <li>・空港周辺から空港までのアクセスが不便という声など、地域の意向も踏まえたアクセス強化の検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・丘珠空港は都市型空港のため、公共交通の利用促進を図るよう、バスアクセスの充実や駐車場運用のあり方について検討。</li> <li>・デマンド型のタクシーやシャトルバスの実証実験等について、詳細な利用状況を把握した上で検討。</li> </ul>
新千歳空港との役割分担及び空港運営体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道内路線の強化のために、どう連携していくかが重要な視点になるため、航空会社のニーズも踏まえて、今後検討が必要。</li> <li>・新千歳空港では、需要を取り込んでいくために、ビジネスジェット専用施設を整備中であり、それぞれの空港の利点を活かした分担も考えられる。</li> <li>・ターミナルの規模拡大に伴い運営主体の責任や負担も大きくなることを見据えた検討が必要。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新千歳空港とは、補完と分担の関係を目指す中、今後も路線・機材の分担や利便性向上を意識して、路線誘致やPR等に連携して取り組む。</li> <li>・ビジネスジェットの利用拡大に向けて、ニーズの把握や課題の洗い出しを行い、新千歳空港との分担も含めて検討していく。</li> <li>・空港運営体制の強化は必要で、ターミナルビル機能強化と一緒に協力・連携の在り方を整理。</li> </ul>

## 3 将来像の取組期間について

- 将来像では、概ね10年後(2032年頃)を目途に、将来像の実現に資する機能(滑走路延伸等)を有する空港となることを目標。
- 地元経済界や航空会社等から、空港の機能強化について早期実現の要望あり。
- 市議会での議論においても、札幌市及び北海道の活力向上のために早期実現を目指すよう要望あり。
- 第1回地域連絡協議会(空港周辺11連合町内会で構成)から、早期実現の希望を確認。
- 検討会での議論や情報共有により、丘珠空港の機能強化に向けた課題が明確になり、国土交通省や防衛省、関係機関との連携体制が強化されたことから、将来像の取組期間の目標年次設定が可能。

⇒ **機能強化の柱となる滑走路延伸については、最短と考えられる2030年供用開始を目指す。**

### 【想定】

2023年~



## 4 今後の想定スケジュール

- 滑走路延伸の2030年供用開始に向けて、空港を所管する国土交通省及び防衛省に要望を行っていく。  
 7月下旬 市議会(総合交通政策調査特別委員会)へ報告  
 8月~ 札幌丘珠空港機能強化推進協議会の開催(国への要望事項の確認)  
 国への要望(札幌市・北海道・札幌丘珠空港機能強化推進協議会)

### 【国への要望事項(案)】

- ・滑走路延伸の2030年供用開始に向けた事業化の調査・検討及び早期事業化
- ・民間航空機の増便と自衛隊の運用の両立に向けた協議・調整(訓練場所の確保、管制・除雪の体制強化等)
- ・ビジネスジェットの利用拡大に向けた環境整備(専用動線、国際便対応、CIQ整備等)